

予算審査特別委員会

委員長 宇留間 又衛門 副委員長 段木 和彦

平成31年度一般会計および特別会計などの予算議案18件を審査するため、2月21日に全議員で構成する予算審査特別委員会を設置し、5つの分科会などにおいて計7日間にわたり審査しました。

また、3月6日に議長から市長に対して、指摘要望事項を提出しました。

◆分科会での主な質疑をご紹介します。

総務分科会

多文化共生について

問 在住外国人が増加する中、地域コミュニティのあり方が課題となっているが、外国人市民と地域をどう結びつけていくか伺う。

答 新年度から千葉市国際交流協会に多文化共生コンシェルジュを配置し、外国人市民の生活相談や行政機関等を利用する際の手続支援のほか、地域コミュニティからの相談も受けることで、多文化共生を進めていく。

東京2020大会について

問 集客を上げるための取り組みについて伺う。

答 小・中学校の体育でパラスポーツを取り入れるとともに、障害者アスリートの学校訪問を通じて、児童、生徒とのふれあいを行っていることから、パラスポーツ大会の学校観戦にもつながっている。また、昨年度から、経済界や県と連携してパラスポーツ大会応援イベントを実施し、観戦につなげていくことで、多くの人に魅力を伝え、集客につなげていきたいと考えている。



障害者アスリート学校訪問

保健消防分科会

成年後見制度に関する周知と協議会設置について

問 成年後見制度等の利用支援に関する周知と、成年後見地域連携ネットワーク協議会の設置目的について伺う。

答 利用支援として、申立費用や後見人報酬の助成などを行っているが、まだ判断能力が十分にある方でも利用できる任意後見制度も含め、成年後見制度全般について、出前講座等で説明している。また、協議会を設置することで、司法と福祉関係者との課題共有による効果的な制度活用や、認知症の高齢者に関わる現場レベルの連携体制を構築することにより、支援が必要な方を早期に把握し、支援につなげていく。

海浜病院退院後のケアについて

問 退院後も医療的ケアを必要とする子どもに対するサポート体制について伺う。

答 医療的ケアが必要な子どもをケアしていくシームレスな仕組みを作ることが大きなビジョンであり、平成30年度から新生児科病棟では、医療需要度の高い退院患者に対して、退院後訪問を行っている。何回か試験外泊をし、退院後の療養環境を見ながら、看護師が在宅支援を行うことで、継続的に外来につなげている。



海浜病院

環境経済分科会

路上喫煙防止の取り組みについて

問 J R 海浜幕張駅周辺地区への喫煙所設置による路上喫煙等の防止効果を検証する実証事業の評価と今後の展開について伺う。

答 取締地区における違反行為が生じている中、喫煙所を設置することによる防止効果や周辺環境への影響を検証するための実証事業を行っている。実施して3か月だが、過料処分件数減少等の効果がみられる。今後、半年から1年の期間で評価・検証を行い、効果が認められれば、他の取締地区への喫煙所設置に向けて検討していく。



設置した喫煙所

地産地消を拡げるための取り組みを

問 地産地消の取り組みとして、生産者による小学校への出張授業を行っているが、平成30年度の実施状況と課題について伺う。

答 平成30年度は、7校で実施した。出張授業は、収穫された食材等を給食に利用する時期に実施しており、出荷の繁忙期と重なるため、講師となる生産者の確保が難しいことが課題である。

教育未来分科会

児童相談所の増床について

問 児童相談所の一時保護所の定員数が37名から42名に増床されるが、定員数についての考えを伺う。

答 1日あたりの平均保護人員は、平成28年度35.8名、29年度32.4名、30年度は12月末までで30.6名となっており、平均のため増減はあるが、現段階での見込みとして改修計画を立てている。



児童相談所

教育委員会の平成31年度予算について

問 予算額が前年度から6.6%増となっているが、この内訳は。

答 前年度から約43億8,400万円増えており、最も増えたものは、エアコン、外壁・トイレ改修などの学校施設環境整備の30億2,400万円増、ソフト事業で最も増えたものは、放課後子ども教室の推進で、1億4,800万円増である。

都市建設分科会

モノレール千葉駅ホームの転落防止柵設置について

問 転落防止柵を設置することになった理由と設置後の運用について伺う。

答 走行レーンの着色やホーム縁端部へのゼブラシート貼付、ホーム照明のLED化のほか、警備員の配置も実施してきたが、ホームからの転落事故は増加傾向であることから、設置することとした。ホームドアのないアルミ製の柵を設置し、当面の間は警備員等を配置しながら、引き続き転落防止に努めていく。



転落防止柵

自転車走行環境の整備について

問 自転車が走行しやすいまちづくりを進めているところだが、駅周辺の人通りの多いところでの自転車走行について、改善を求める声があがっている。自転車走行環境を整備することとあわせ、自転車を降り、押して歩くような対策が必要と考えるが、いかがか。

答 駅前広場など歩行者の多い場所において、危険な運転が見受けられるため、注意看板等を設置しているが、ルールが守られていない状況がある。今後は、交通安全を所管する市民局と連携し、現地調査も含め、有効なサインなど、様々な視点から対応を研究していく。